

「認知症の正しい理解と日常生活」

～認知症の人がその人らしく生活できるように家族が知っておきたいこと～

【主旨】

高齢化率 27.7%の超高齢社会の今日、認知症の人は増加傾向にあります。認知症高齢者と予備軍とされる「軽度認知障害」(MCI)を加えれば、65歳以上の3人に1人が該当するといわれ、年齢が高くなればなるほど認知症の割合が急増しています。最近では65歳前に発症する若年性認知症の増加も問題として浮かび上がってきています。認知症問題は世界共通の課題でもあり、認知症の研究によりその解明はかなり進んできています。認知症は、もはや「国民病」他人事ではありません。

そのような中、認知症の理解不足や偏見から家族介護者の不安や介護に対する戸惑い、ストレスなど計り知れない現状もあります。

本コースでは、認知症当事者の世界をご理解いただくVR体験を取り入れ、午後からは認知症の方を介護するにあたってのポイントをお伝えします。認知症を「自分事」として考え、認知症の正しい理解と日常生活について学び考える機会とすることを目的としています。

【概要】

- ・参加対象：被保険者及びその家族（現在介護をされていない方もご参加可能です。）
- ・時間：10：00～15：30
- ・配布資料(予定)：専用教材、電話相談センターの案内
地域別保健福祉サービス情報「あなたの町の保健福祉サービス情報」

【認知症介護コースのポイント】

・<講義> 認知症を正しく理解するために

認知症を「自分事」として考えるきっかけとするために、認知症の人のインタビューやVR体験を使うことでその考えを知り、本人が見えている世界を疑似体験できます。認知症の人の気持ちを理解し、寄り添うためのヒントを習得します。

・<講義> 認知症当事者を支える生活とは！より良く暮らす方法を学ぶ

認知症の進行ステージにより現れる主な症状を理解し介護者としての関わり方、双方にとって安心して暮らせる環境整備の時期、考え方などを学びます。また、徘徊などの困った症状の具体的対応などについても学びます。生活を支える制度、相談窓口についても解説します。

【参加者名簿に記載していただきたい内容】

- ・参加者氏名、性別、年齢
- ・介護中か否か（講義内容に反映させるため、報告内容を集計し、担当講師に事前に伝えます。）
- ・参加者及び要介護者の居住市町村名（上記配布資料の地域別保健福祉サービス情報を配布するため）
※住所の番地までは必要ありません。市町村名までで結構です。
- ・講座の中で特に聞きたい点、事前の質問事項など（任意です。講義内容に反映できるよう、報告内容を集計し、担当講師に伝えます。）

【受講案内時に告知していただきたい内容】

- ・服装等の注意事項はありません。